

**製品名: Jagged1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12813**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	140kDa

**抗原情報**

遺伝子名	JAG1
別名	JAG1; JAGL1; Protein jagged-1; Jagged1; hJ1; CD339
遺伝子 ID	182.0
SwissProt ID	P78504
免疫原	抗血清はヒト JAG1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 981-1030

**背景**

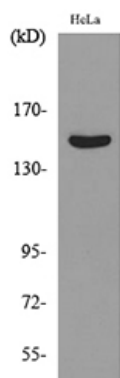
JAG1によってコードされる jagged 1 タンパク質は、ショウジョウバエの jagged タンパク質のヒトホモログです。ヒト jagged 1 は

受容体 notch 1 のリガンドであり、受容体 notch 1 はショウジョウバエの jagged 受容体 notch のヒトホモログです。jagged 1 タンパク質を変化させる変異は、アラジール症候群を引き起こします。notch 1 を介した jagged 1 シグナル伝達は、造血にも関与することが示されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月], 発育段階: 32~52 日胎芽の遠位心臓流出路および肺動脈、主要動脈、門脈、眼胞、耳胞、鰓弓、後腎、脾臓、心中膜、主要気管支枝周囲、および神経管に発現する。疾患: JAG1 遺伝子の欠陥は、ファロー四徴症 (TOF) [MIM:187500]の原因となる。TOF は、肺動脈狭窄、心室中隔欠損、大動脈右折 (大動脈が左側ではなく右側にある)、および右心室肥大からなる先天性心疾患である。この疾患により、酸素供給不足のため、出生時に青色児となる。外科的治療が急務となっている。疾患: JAG1 遺伝子の欠損が、アラジール症候群 1 型 (ALGS1) [MIM:118450]の原因である。アラジール症候群は、常染色体優性遺伝性の多臓器疾患であり、臨床的には肝胆管の減少と胆汁うっ滞を呈し、心臓、骨格、眼の症状を伴う。特徴的な顔貌がみられ、腎血管系への臨床的影響は稀である。疾患: Asp-274 変異は「漏出性」である。このアレルからは 2 つのタンパク質集団が産生される。1 つは異常に糖鎖付加され、細胞表面に輸送されずに細胞内に留まる。もう 1 つは正常に糖鎖付加され、細胞表面に輸送され、そこで Notch 受容体へのシグナル伝達が可能となる。Asp-274 タンパク質は温度感受性であり、高温では異常に糖鎖付加された (かつ機能しない) 分子がより多く産生される。したがって、この変異のキャリアは、細胞表面上の分子の濃度が正常値の 50% 以上 100% 未満になります。この変異に関連する心臓特異的表現型は、発達中の心臓は発達中の肝臓よりも JAG1 タンパク質の量の減少に対して敏感であることを示唆しています。機能: 複数の Notch 受容体のリガンドであり、Notch シグナル伝達の仲介に関与しています。造血中の細胞運命決定に関与している可能性があります。哺乳類の心血管発生初期および後期に関与していると思われます。筋芽細胞分化を阻害します (類似性により)。線維芽細胞増殖因子誘導性血管新生を促進します (in vitro)。類似性: 1 つの DSL ドメインを含みます。類似性: 15 の EGF 様ドメインを含みます。サブユニット: NOTCH1、NOTCH2、および NOTCH3 と相互作用します。組織特異性: 成人および胎児の組織で広く発現しています。子宮頸部上皮において、未分化な垂円柱状予備細胞および扁平上皮化生において発現する。子宮頸部扁平上皮癌において発現が亢進する。未熟な前駆細胞の長期維持を支える骨髄細胞株 HS-27a において発現する。

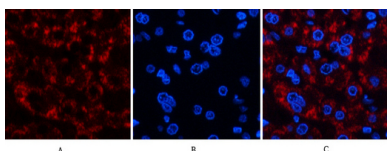
## 研究分野

ノッチ;

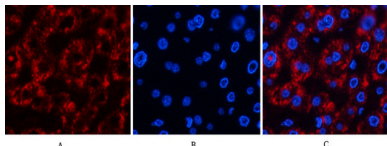
## 画像データ



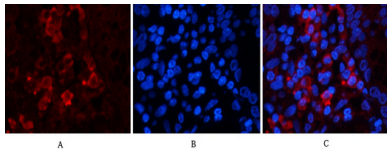
JAG1 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解液のウェスタンブロット分析。



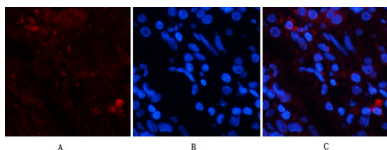
ヒト肝臓組織の免疫蛍光染色。1, Jagged1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



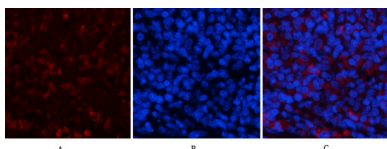
ヒト肝臓組織の免疫蛍光染色。1, Jagged1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



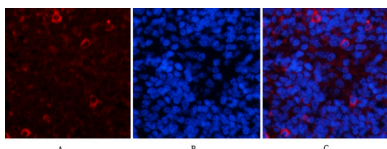
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, Jagged1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



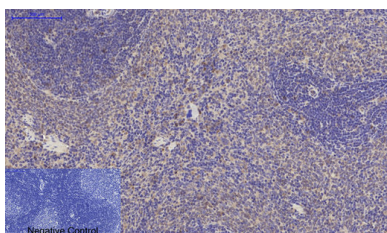
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, Jagged1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



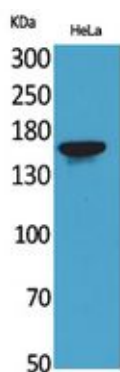
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, Jagged1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, Jagged1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学染色。1, Jagged1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3, 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



Jagged1 ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。